

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

35507

令和8年3月24日

札幌市立平岡緑中学校

学校教育目標 『夢を結び、豊かに未来を拓く生徒の育成』

- 豊かに人間性・社会性を学び合う ～豊かな人間性の育成～
- 自ら学び考える力を高めあう ～確かな学力と自ら学ぶ力の育成～
- 確かに知性を磨きあう ～望ましいソーシャルスキルの育成～
- たくましく心身を鍛えあう ～たくましく健やかな心身の育成～
- 真摯に共生の考えを深めあう ～温かな人間関係の育成～

本年度の学校経営方針 【Plan】	教職員アンケート (n=26)		生徒アンケート (n _{1年} =127、n _{2年} =127、n _{3年} =139)			保護者アンケート (n=237)		自己評価【Check】		学校関係者評価				
	番号	項目	評価	平均	項目	学年		項目	評価	平均	達成状況	分析と改善の方策【Action】	自己評価	改善策の適切性
						1年	2年							
1 人間尊重の教育 ●夢と感動を大切にできる魅力的な学校	①	学校教育の重点目標や経営方針のもと、連帯と協働を意識し、生徒の成長に喜びとやりがいを感じている。	A	4.46							A	①引き続き、人間尊重への広い視野をもち、同僚性を発揮しながら、主体的に相互承認の感度を高めていく。	A	A
	②	生徒にとって魅力ある学校生活となるよう努めている。(学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動など)	A	4.81	中学校での生活が楽しく、充実している。(学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動など)	1年 A 4.43 2年 A 4.52 3年 A 4.47	お子様は、楽しく、充実した学校生活を送っている。(学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動など)	A	4.44	A	②今後も、生徒にとって魅力ある学校生活となるよう教育課程をより充実させていく。	A	A	
	③	働き方改革を意識した教育活動を行っている。	B	3.50							B	③評定の2期制への変更に伴う1、2学期末の業務の減少、徴収金の回数を減らすことによる業務削減ができたが、教師の業務は多種多様である。地域社会の力をお借りしながら、学校(教師)が担うべき本来業務に力を注いでいきたい。	A	A
	④	研修会等を通して、特別な配慮を必要とする生徒への理解を深め、支援の充実を図っている。	A	4.46							A	④引き続き、生徒一人一人の学びや成長を支えていけるよう、校内外の研修を通して、更なる資質の向上に向けた取組を図って生徒の教育に当たっていく。	A	A
2 「学ぶ力」の育成 ●学ぶ力を育む進化・深化する学校	⑤	すべての生徒が意欲的に学び、成果を実感できる授業の工夫・改善に努めている。	A	4.54	授業では、学習課題を意識して意欲的に授業に取り組んでいる。	1年 B 3.96 2年 A 4.05 3年 A 4.23	お子様は、意欲的に学習に取り組んでいる。	B	3.94	A	⑤1年生の実態をしっかりと把握して、学習意欲を引き出せるような教材研究並びに授業の工夫を図っていく。	A	A	
	⑥	ICT等を活用した課題探究的な学習の充実を図っている。	A	4.31	授業では、タブレットを活用して学習活動をしている。	1年 A 4.39 2年 A 4.43 3年 A 4.22				A	⑥タブレットの活用は定着している。今後も、タブレットを効果的に活用した学習の実現を図っていく。	A	A	
	⑦	一人一人の学びの姿や成長の適切な評価と励ましに努め、教師の授業改善や生徒自身の意欲喚起につながる評価の充実を努めている。	A	4.42	先生方は、自分が学習した成果を適切に評価していると思う。	1年 A 4.44 2年 A 4.31 3年 A 4.29	学校は、お子様が学習した成果を適切に評価している。	A	4.18	A	⑦指導と評価の一体化を実現することができた。確かな学力を形成的に評価できるよう、生徒の学びの見取りをさらに充実させていく。	A	A	
	⑧	生徒が、総合的な学習の時間に興味をもって意欲的に取り組むよう努めている。	A	4.27	総合的な学習の時間では、興味をもって取り組み、大切なことを学んでいる。	1年 A 4.41 2年 A 4.26 3年 A 4.34				A	⑧校内研修会でも力を入れてきた内容である。生徒が自ら課題意識をもちながら、主体的に課題解決を図っていく学びをこれからも大切にしていきたい。	A	A	
3 「豊かな心」「健やかな体」の育成 ●自己肯定感・自己有用感を育む 温かな学校	⑨	人権や命を大切に指導、思いやりの心を育む指導を計画的に行っている。(道徳教育、人権教育等)	A	4.50	仲間との関わりや命を大切にすることについて学び、思いやりをもって生活している。	1年 A 4.59 2年 A 4.57 3年 A 4.51	お子様は、自分や仲間の命を大切に、思いやりをもって生活している。	A	4.46	A	⑨弁護士による出前授業を行うなど、工夫することができた。今後も、いじめを「しない・させない・許さない」という考えの下、道徳教育等を充実させ、お互いを尊重する温かな土壌を学校全体で醸成し、豊かな心の育成に努めていく。	A	A	
	⑩	生徒の体力・運動能力の維持向上を目指して、スポーツに親しみ、運動習慣づくりに取り組む指導の充実を努めている。(体育的行事、昼休みの体育館使用、部活動等)	A	4.46	健康のために、食事や運動、睡眠に気を付けて生活している。	1年 B 3.81 2年 B 3.77 3年 B 3.79	お子様は、食事の大切さや適切な運動、睡眠時間を意識して生活している。	B	3.72	B	⑩市教委の「運動機会の充実を図る環境整備推進事業」は委託初年度のため、その推進に力を入れる。また、次年度に配置となる栄養教諭と共に食育に関する意識をさらに高めるなど、「健やかな体」育成プログラムを充実させる。	A	A	
	⑪	将来の進路や生き方について、適切な指導を行っている。(進路学活、キャリア教育等)	A	4.28	将来の進路や生き方について学んだり、考えたりしている。	1年 B 3.68 2年 A 4.06 3年 A 4.27	学校は、お子様の将来の進路や生き方について適切な指導を行っている。	A	4.20	A	⑪キャリア教育を1年生から充実させ、将来への希望が学ぶ意欲に結び付くよう、生き方の教育を充実させていく。	A	A	
	⑫	教育相談、不登校やいじめ問題の速やかな初期対応を図り、事態の深刻化を防いでいる。(教育相談、各種会議、アンケート等)	A	4.81	困ったり、悩んだりしたとき、先生方は親身に対応していると思う。	1年 A 4.19 2年 A 4.29 3年 A 4.32	学校は、お子様の悩み等の相談に丁寧に対応している。	A	4.23	A	⑫不登校支援は特に力を入れてきた部分である。今後も教育課程における最重要項目であることの認識をもって取り組んでいく。	A	A	
4 信頼される学校の創造 ●保護者、地域から信頼される安全・安心な学校 ●教育環境が整備された気品ある学校	⑬	安全な学校生活を送るため、十分な対策をしている。(薬物乱用防止教室、避難訓練や防災学習、講演会等)	A	4.50	避難訓練などの学習を通して、防災に関する意識を高めている。	1年 A 4.54 2年 A 4.23 3年 A 4.41	学校は、避難訓練や防災学習等を通して安全に学校生活を送るための取組を行っている。	A	4.46	A	⑬防災に関する講演会を実施するなど、工夫を施してきた。引き続き、生徒が自ら適切に判断し主体的に行動できるよう、安全教育及び危機管理体制の構築に努めていく。	A	A	
	⑭	「開かれた学校」を目指し、情報の発信に努め、保護者や地域の人たちが来校する機会を多く作っている。(授業参観、学校だより、学校ホームページ、すぐる配信等)	A	4.65			学校は、学校HPや保護者メール(すぐる)等で情報の発信に努め、保護者や地域の人たちが来校する機会を用意している。	A	4.60	A	⑭社会に開かれた学校を今後も意識して、行事や講演会等の呼びかけなど、積極的な情報の発信に努めていく。	A	A	
	⑮	学校と保護者、地域の協力を生かした取組を計画的に推進している。(コミュニティ・スクール(CS)、学校運営協議会、健全育成推進会等)	A	4.42			学校は、小中一貫した教育を推進し、地域の方々と連携している。	A	4.19	A	⑮今年度、学校運営協議会を設置し、パートナー校(小学校)との連携も深めてきた。今後も、札幌らしいCSの考えのもと、小中一貫した教育を推進し、家庭や地域との関わりの一層の充実を図り、生徒を育成していく。	A	A	

今年度の実践

【Do】



※ 5:よく当てはまる 4:やや当てはまる 3:どちらでもない 2:あまり当てはまらない 1:まったく当てはまらない、として、
 平均が5 ≥ x > 4 のとき「A(十分に達成)」、4 ≥ x > 3 のとき「B(達成)」、3 ≥ x > 2 のとき「C(あまり達成していない)」、2 ≥ x ≥ 1 のとき「D(まったく達成していない)」とした。
 ※ 達成状況は、教職員・生徒・保護者のアンケート結果に見られるA~Dの状況とアンケートの平均の数値をもとに示した。
 ※ 学校関係者評価委員会による評価は、A:十分に適切、B:適切、C:やや不適切、D:不適切の基準で示した。

学校関係者評価委員会(2/19開催)による意見
 ○学校ホームページ、すぐる配信等で、学校の様子をわかりやすく伝えている。
 ○次年度は、総合的な学習の時間(キャリア学習)で地域の人材を生かすために、中学校と地域(町内会等)とのつながりを更に深めていただきたい。
 ○教職員と生徒、保護者による評価(数字)の差が大きい項目(質問⑤⑩)の原因を丁寧に分析する必要がある。教職員が達成できていると自己評価している実践が、生徒や保護者にも伝わる工夫を施すことを期待する。
 ○次年度より、学校関係者評価委員会は、学校運営協議会(コミュニティスクール事業)の中に位置付けていくとよい。
 ○自己評価、分析と改善の方策ともに適切(A)である。次年度の平岡緑中学校の充実した学校運営を期待する。